

◎今週の御言葉 「キリストによる新生」(ヨハネの福音書3章1～21節) 「イエスは答えて言われた。『まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。』」(3:3) 仲森文穂

○イエス様がエルサレムにおられた時、夜に訪問者がありました。その名はニコデモ、パリサイ人でユダヤの指導者でした。そんな彼にイエス様は「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」と仰いました。これがご自分の伝道が一番中心となる事柄だったからです。ユダヤ人はみな神の国に入ることを望みました。律法を守れば神の国に入ると教えたパリサイ人と違って、イエス様は、人は律法では救われない、十字架のイエス様の贖いによってのみ救われるという立場でした。

「新しく生まれる」の「新しく」という言葉は「上から、神により、霊によって」という意味があります。しかし、ニコデモは「私のような老人が、再び母親の胎に入って生まれるなんてできましようか」と答え、話がかみ合いません。イエス様が天上の話をされているのに、彼は地上の話をしています。イエス様が霊の話をされているのに、彼は肉の話をしているのです。神様を信じていると言いながら、ニコデモは自分の能力や可能性の範囲内で「そんなことできません」というのです。それが、律法中心の信仰の限界なのです。

○3:5の「水と御霊によって生まれる」という御言葉は、洗礼を指します。洗礼を受ける時、「私はイエス様を救い主として信じます」と告白しますね。そんな私に罪の赦しが宣言され、水と御霊によって洗礼が授けられます。しがらみだらけの古い私に死に、神様を信じて生きる新しい私が誕生するのです。それが「キリストによる新生」です。

大事なものは十字架によるイエス様の贖いです。イエス様は罪多き私たちの贖いとなりました。この贖いについて民数記21章に「青銅の蛇」の故事があります。イスラエルの民が罪を犯し、彼らの中に蛇が送られ、多くの人々が噛まれて死にました。モーセが神様にとりなしの祈りを捧げると、神様は青銅の蛇を旗竿に掲げるよう命じ、蛇に噛まれた人がその旗竿の蛇を見上げると生き返るようにしてくださったのです。そのように十字架のイエスを見上げることによって、全ての人が救いにあずかり、神の国に入ることができるといふ、このメッセージは、ニコデモの心に届いたのでしょうか。

○ニコデモの名は、あと2回出てきます。ヨハネ7:50では神殿でイエス様がパリサイ人と論争して大騒ぎになった時、ニコデモは同僚たちの前で、イエス様の弁護をして、なじられています。またヨハネ19:39では、彼は処刑されたイエス様の元に没薬を持ってきて、アリマタヤのヨセフらと共に、イエス様の葬りの準備をしています。イエス様の十字架の足元で、ニコデモの心に去来したのは何だったのでしょうか。この十字架にこそ新しい生の始まりがあるという霊の思いではなかったのでしょうか。